実践研究（９）対象授業：クリティカル・リーディング　担当：舘岡

１．授業内容

金曜日 ４限	観察期：授業観察について討議、参与観察記録作成 授業実施期：教材作成、授業、（上記も継続） 最終：参与観察記録をまとめ、レポートを作成

下記の対象授業について、参与観察後のディスカッションから始まり、授業デザイン、教材作成、実践、授業評価を行う。実習という体験自体、重要ではあるが、単に教授技術にとどまらず実習体験を自分の中でどのように位置づけることができるのか、自らの教育観・学習観を振り返る機会としたい。

２．実習内容

金曜日 ３限	観察期：学習者支援、参与観察 授業実施期：授業の実施、授業実施のサポート（上記も継続）

日本語 5-6 レベル（中級）対象のテーマ科目「クリティカル・リーディング」を対象とする。評論文を批判的に読んで自分の意見を表現する。協働的学習により参加者が対話を通して学びあうことを主眼とする。実習生は最初はグループワークの１メンバーとして、徐々にクラスのコーディネータ＆ファシリテータとして主体的に参加し、授業のデザインと授業実践を体験的に学ぶ。

３．その他の活動

・宿題（提出シート）のチェックなど
・授業担当の際の相談は、金曜日４限だけでは足りないので、担当者間でそれ以外の時間に相談することになる。

４．担当教員の考える「実践研究（９）」

①この実践研究を履修することで得られること、得て欲しいこと

授業デザインのあり方と教師の役割は何かを体験を通して学ぶ。教壇に立って解説をしたり学習者に練習をさせたりするばかりでなく、学習者が自律的に学習に参加できるようなデザインはどのようなものか、そこでの教師の役割は何かを考えていく。そのようなことは机上では学べない。自ら参加し体験することによって、気づき学ぶことができる授業を目指したい。

②実習として学習者と接するときの留意点

実習生も学習者もともに「学ぶ者」であるという姿勢を忘れないでほしい。

③この実践研究を履修する日研生に最も伝えたいこと

授業を創るという試行錯誤の協働プロセスに積極的にかかわり、日本語学習者をどのように支援できるかをいっしょに考え、実践していってほしい。

また、人が「学ぶ」ということはどういうことかをたえず内省しながら、目前の活動と自らの教育観や学習観とがつながることを期待する。

④参考文献

・舘岡洋子（2005）『ひとりで読むことからピア・リーディングへ―日本語学習者の対話的協働学習』東海大学出版会
・池田玲子・舘岡洋子（2007）『ピア・ラーニング入門―創造的な学びのデザインのために』ひつじ書房